

天王山古墳群発掘調査概要

—神戸市垂水区伊川谷町所在—

1 9 7 2 · 3

神戸市教育委員会

はじめに

神戸市垂水区伊川谷町一帯は、古代の遺跡が多数点在する地域として、一般によく知られているところであります。とりわけ伊川が明石川に合流するあたりの北方につらなる丘陵上には「ひさご塚古墳」が存在しております。

このたび、その内の一つ「天王山古墳群」が宅地造成によって破壊されるおそれが強くなりましたが、国および県の補助金を得て、遺跡の性格を明らかにするための発掘調査を実施いたしました。

その結果、円筒埴輪を伴う三基の古墳を含む古墳群の実体が明らかになつてしまいりましたので、ここに概要をとりまとめ報告し、今後の遺跡保存への一助といたしたいと存じます。

1972年3月

神戸市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、神戸市教育委員会が国および県の補助事業として実施した、神戸市垂水区伊川谷町所在天王山古墳群緊急発掘調査の概要である。
- 2 調査は、神戸市立考古館学芸員喜谷美宣を担当者として、昭和47年2月15日着手、3月31日に完了した。その間、神戸市文化財専門委員野地修左・小林行雄・植上重光の諸先生から種々御教示を得た。記して厚く感謝の意を表したい。

天王山古墳群発掘調査概要

1) 神戸市垂水区伊川谷町別府に所在する天王山附近の丘陵上には、埴輪を伴う古墳が群をなして存在し、谷をへだてた西側の薬師山に存在する「ひさご塚古墳」とともに、この地域の代表的な古墳群であることは、古くよりよく知られているところである。

ところが最近、この地域にも宅地造成の波がおしよせ、天王山古墳群を含む丘陵が破壊されるおそれが生じたので、それらを現状保存するための基礎的な資料を作成するため今回の発掘調査を実施した。

今回の調査は、この地域全体の分布調査で明らかになつている遺跡の内、宅地造成予定地域に入つている9ヶ所を対象に開始したが、調査の進行に伴つて発見された8ヶ所もあわせて、最終的には12地点について調査を実施した。

調査にあたつては、この古墳群が現状保存されるということを前提として、調査区域を最少限にとどめるよう努力した。したがつて、墳丘の明瞭なものについては、主体部の存在が予想される墳頂部にはトレンチを設定せず、墳丘斜面の四方に幅50cmのトレンチを設定して盛土の有無および墳丘裾部の確認にとどめた。ただし、のちに述べるように第8地点のみは、円筒埴輪列の存在する部分のみ一部トレンチを拡張して遺跡の性格を追求した。

2) 天王山古墳群の所在地は、伊川谷町別府の字天王山・小畠山・北横尾にまたがる地域であるが、今回の調査対象となつた第1～9地点の存在するのは小畠山および北横尾に属する地域であり、特に中心となる第1～4地点は両字の境界線上の南北にのびた丘陵上に、第1地点を最北にして一直線にならんでいる。そして、第4の2～6地点までは第4地点から西へのびた尾根上にあり、第7～9の2地点は第1地点から西へのびた尾根上に位置している。なお、今回の調査対象外になつた第11・12地点は、第4地点から南約100mの地点にほぼ東西にならんでいる。

天王山周辺に多数の古代遺跡の存在することはすでにふれた通りであるが、最も近い距離にあるのが、「ひさご塚古墳」で、第4地点から南西約350mの地点にあり、いわば同一古墳群に含めて考えるべき性格の遺跡である。

また、西方約600mの永井谷をへだてた丘陵上には鬼神山古墳が存在する。

3) 各地点の概要は次の通りである。

第1地点(古墳)

墳丘の規模を明らかにするため、トレンチを墳丘斜面の四方に設定した。その結果、直径約10m、高さ約1.2mの円墳で、周囲に幅約1mの周溝状の窪みがめぐつていることが明らかになつた。表土および周溝状の窪みの埋土内より、須恵器片、円筒埴輪片などが出土したが、トレンチ内では埴輪の原位置は確認できなかつた。

第1の2地点(古墳)

第1地点と第2地点との間にあり、分布調査の際には古墳とは認められていなかつたが樹木を伐採した結果小隆起が認められたので十字にトレンチを設定し追求した。その結果厚さ約40cmの盛土があり、直径約10m、高さ約60cmの円墳であることが明らかになつた。墳丘の北および南側裾部に円筒埴輪片が散布していたが、第1地点あるいは第2地点から転落したものである可能性もある。

第2地点(古墳)

墳丘の四方にトレンチを設定した結果、直径約14.5m、高さ1.8mの円墳で尾根が続く北および南側の墳丘裾部は尾根を切断して溝が掘られていた。円筒埴輪片が散布しているが、トレンチの範囲では原位置は確認できなかつた。

第3地点(古墳)

墳丘斜面の四方にトレンチを設定した結果、直径約20m、高さ約2.5m、二段築成の古墳で、西側に長さ約5m、最大幅約10mの扇状にひらいた造り出しをもついわゆる帆立貝式古墳であることが明らかになつた。この古墳も尾根の続く北および西南側は溝をめぐらしている。

円筒埴輪は、地山をけずり出した第一段のテラス面および造出し部の上面に列べられており、底部の直径10~15cmの小形もので、1mにつき5本の割合で埋置されていた。

造出し部に面した円筒埴輪列の内側には土器群があり、器台・杯・壺などの須恵器が認められた。また、造出し部北側くびれ部の埴丘裾にも土器群があり、須恵器の蓋杯および土師質の杯が認められた。（いずれも 6 世紀前半のもの）

造出し部の円筒埴輪列は、北側のみ調査したが、埴丘をめぐる埴輪列から西へ 6 本確認できたが、それ以上続いていたかどうかは不明である。造出し部の北側斜面には、埴輪片が多数落下していたが、その内には馬・盾などの形象埴輪片も含まれており、造出し部の上面に形象埴輪群が樹立していたことが明らかになつた。

なお、造り出し部は、埴丘の第一段が地山をけずり出してつくられたのち、盛土を施して付設されたものであり、地山の部分はほとんどない。

また、この古墳の盛土内にはサヌカイトの小片が含まれており、古墳時代以前の遺跡が付近に存在することを推測させる。

第4 地点（古墳）

埴丘の四方にトレントを設定した結果、直径約 18 m、高さ約 2 m の円墳で基底部から約 1 m は地山をけずり出して埴丘をつくり、その上部に約 1 m の盛土を施していることが明らかになつた。今回の調査では遺物は全く発見されておらず、埴輪はなかつたようである。（地形実測によると、方墳である可能性もある。）

第4 の 2 地点

第4 地点の西側で、分布調査時には気付かなかつた小隆起が認められたので十字にトレントを設定したが、表土直下ですぐに地山に達し、トレント内に遺構は認められなかつた。

第5 地点（散布地）

分布調査の際、須恵器片が採集されているが、二ヶ所に設定したトレント内では遺構は検出できなかつた。

第6地点

直径約8m、高さ約1.5mの隆起が認められたので十字にトレンチを設定し遺構の検出につとめたが、表土直下で地山に達し、盛土は全く認められなかつた。

第7地点

トレンチを一ヶ所設定したが遺構は検出できなかつた。

第8地点(散布地)

分布調査の際、須恵器片を相当量採集しているが、今回設定した三ヶ所のトレンチ内では遺構は検出できなかつた。

第9地点

トレンチを一ヶ所設定したが、遺構は未発見である。

第9の2地点(散布地)

今回の調査で、土師器の小片が若干採集されたので、トレンチを一ヶ所設定したが、遺構は未発見である。

4) 以上の調査によつて、今回の調査区域内に5基の古墳と3ヶ所の遺物散布地が存在することが明らかになつた。その内、三基の古墳に円筒埴輪がめぐらされており、しかも主墳ともいべき第8号墳が帆立貝式の古墳であることははなはだ重要である。すなわち、この5世紀末から6世紀初めにかけて築造された天王山古墳群は、伊川谷全域はもとより、明石川流域における後期群集墳の内でも、中心的な位置を占めるべき性格の一群であることが明らかになつたのである。また、第8号墳出土の馬形埴輪は、兵庫県下でも数少ない実例であり、播磨における形象埴輪の変遷と終末の問題を考察する上に貴重な一例を加えるものである。

天王山古墳群の重要さは、伊川谷の歴史・明石川流域の5世紀末から6世紀へかけての歴史を解明するために必要欠くべからざる資料であるばかりでなく

広い視野で播磨全域をみると、更に一層その重要性は増してくる。近年、播磨の各地で明らかになりつつある5世紀末から6世紀へかけての古墳の実体……たとえば、山田川流域の大歳山前方後円墳・加古川流域の印南野2号墳およびカヌス塚古墳・市川流域の宮山古墳……などとの対比によって、播磨における5・6世紀史の研究は、はじめてその緒についたというべきであろう。

したがつて、天王山古墳群は、伊川谷の歴史・明石川流域の歴史・更には播磨の5・6世紀史の解明のために、ぜひ保存されるべき遺跡である。

古墳群の原状と、それをめぐる自然環境とが、ほぼ完全な形で残されている天王山古墳群を、市民の歴史を愛する心を培う場として、また市民生活にうるおいをあたえる緑の空間として完全な形で保存・活用されることが、この古墳群の発掘調査に参加したわれわれの切なる願いである。

(喜谷美宣)

<調査参加者>

井 上 直 樹	魚 住 ゆかり	浦 川 和 子
太 田 利 彦	岡 田 哲	喜 谷 実 宣
河 野 通 哉	堺 一 朗	高 原 敏 郎
中 村 善 則	松 尾 秀 樹	松 下 栄 美
松 下 康 浩	真 野 修	保 田 光 雄
吉 田 浩 幸		

図版 1



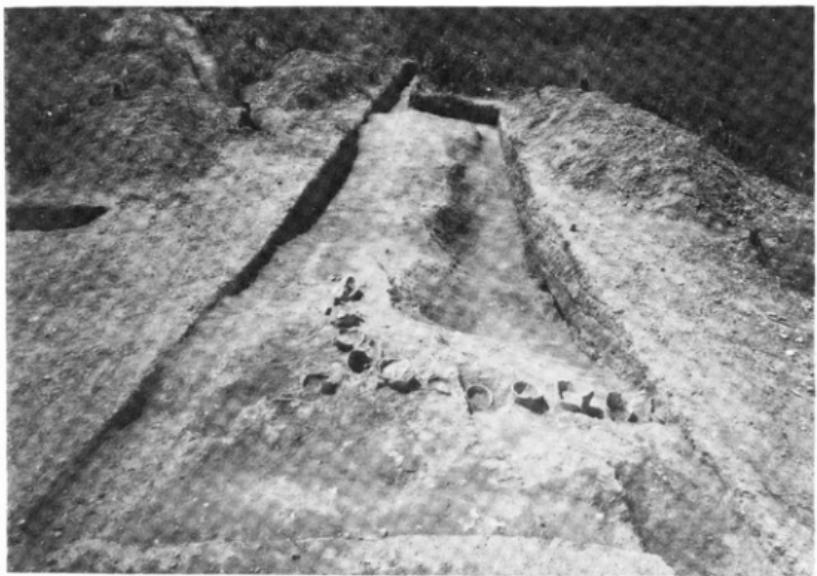
第1・第2・1の2・2号墳全景（南側より）



第3号墳全景（南西側より）



第 8 号 塚 造出し部（西側より）

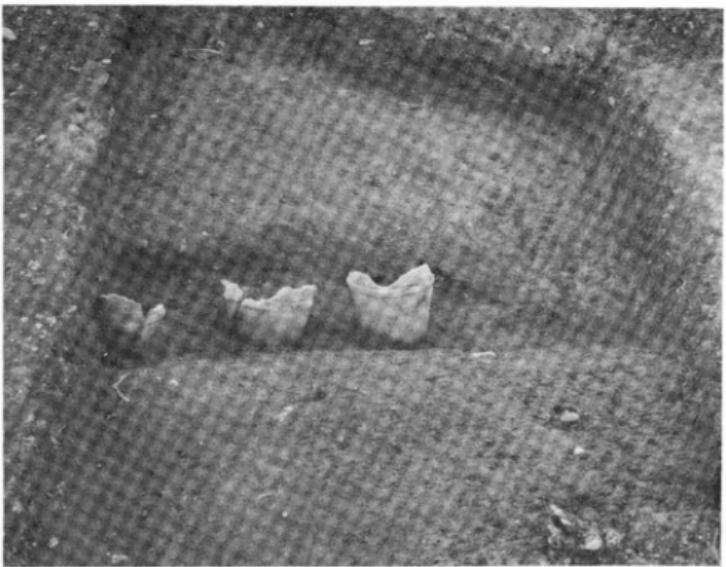


第 8 号 塚 造出し部（東側より）

図版 3

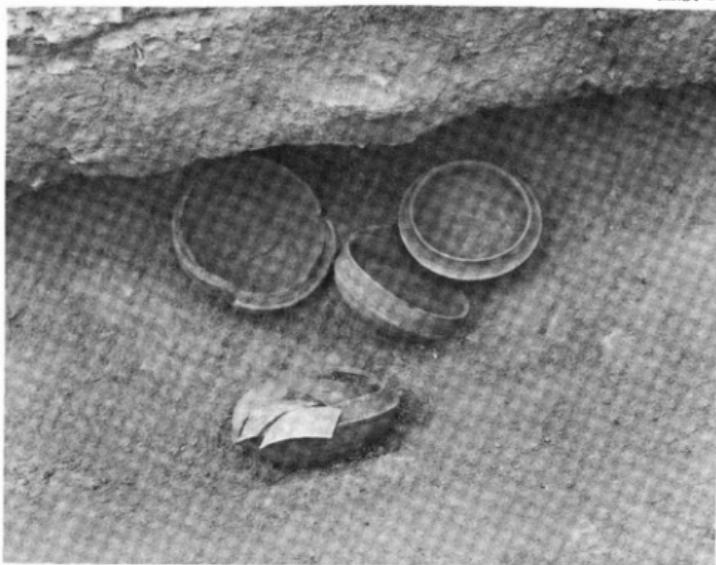


第 8 号墳造出し部土器群（東側より）



第 8 号墳北側凹筒埴輪列（南側より）

図版 4



第3号墳北側くびれ部出土土器群（南側より）

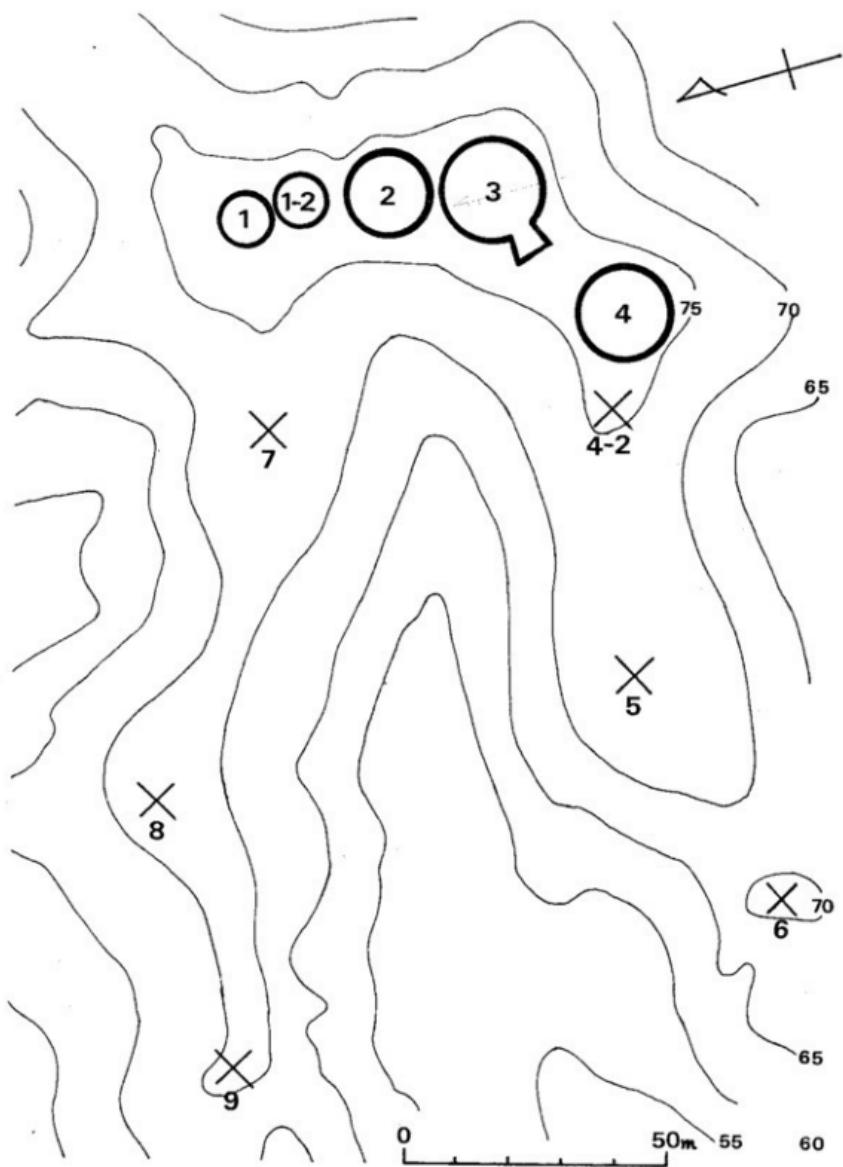


第4号墳全景（北東側より）

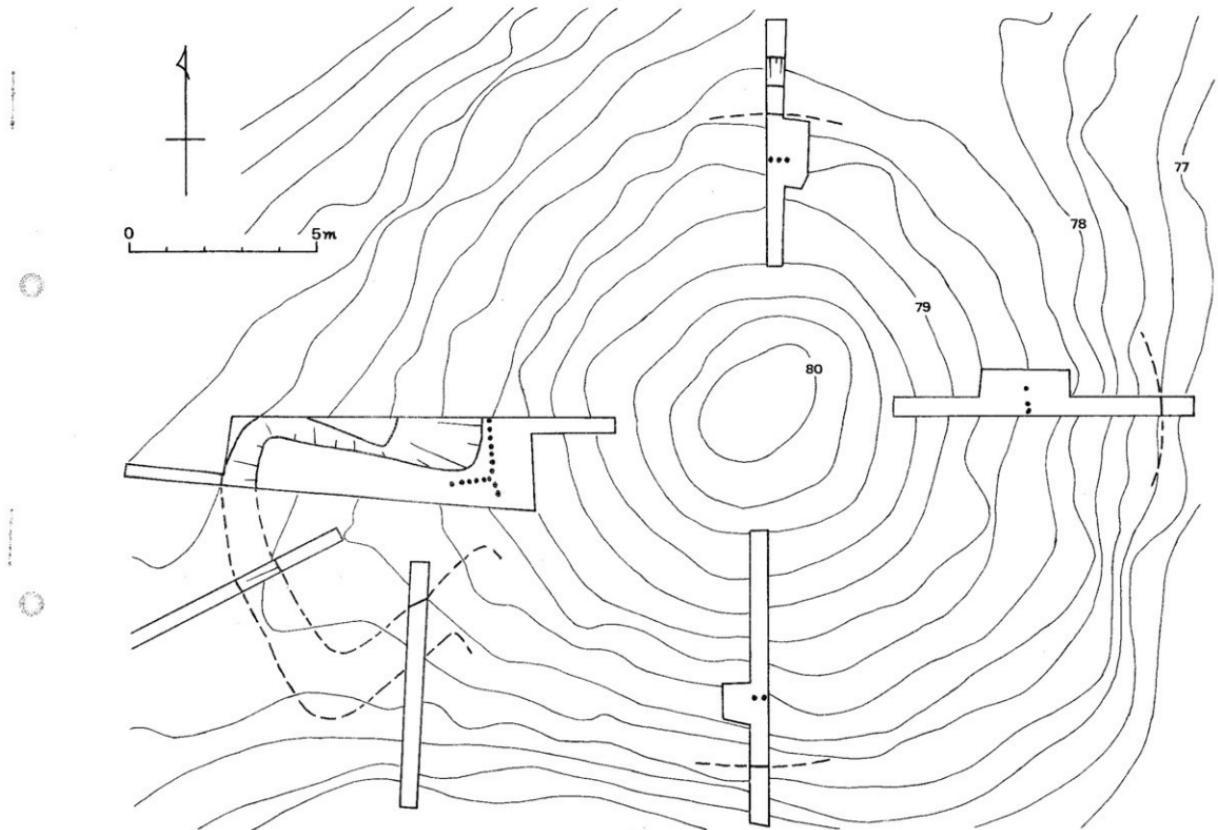


第1図 天王山古墳群位置図

1.ひきざ塚古墳 2.天王山古墳群 3.鬼神山古墳



第2図 天王山古墳群平面略図



第3図 天王山第3号墳平面図

